

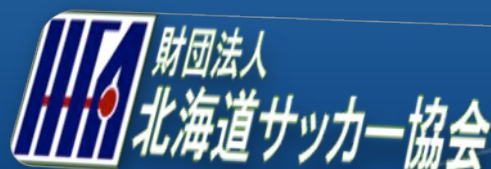
2011北海道トレセン女子

U-15第IV期 ~U-13 冬季トレセン交流大会~

2012年1月7日~8日

【報告者】 中川一輝

会場：札幌市スポーツ交流施設「つどーむ」



基本を徹底し ゲームに生かす

☆1 事業の概要

大会参加チームは札幌・道北・道南・道央・道東の5ブロック×2チーム+HFA3チーム(U-12, U-13, U-15女子)で、10分—0分—10分—3分—15分の8人制のリーグ戦を行った。冬季期間での各ブロックトレセン活動の充実と活性化を図り、次年度へ向けた育成を目的として、U-15女子の選手は16名(NTCメンバー9名、サポートメンバー5名、GK2名)、スタッフ4名で今大会に参加させていただいた。

☆2 プレーの分析

①基本のテクニック

プレッシャーのない状態でのターンやコントロール、パスに関しては男子と比較しても引けを取らないスキルが身につけていてゲームの中でも十分に発揮することができていたが、ハイプレッシャーになるとコントロールが足元に入ってしまったたり、ボールが身体から離れてしまうプレーが見られた。相手の状況を見ながら落ち着いてプレーすることが日々のトレーニング



グの中で身につけていく必要があると感じた。

②守備

「ボールを奪いきる」をコンセプトに、1対1・2対2の局面では対応できていたが、ゲーム全体では8人のポジショニング・マークすべき相手が不明確で、1stDFが遅れたり、他の選手のポジショニングが決まらず「狙いをもって奪う」ことができないシーンが多くみられた。たとえ奪えたとしても崩れたポジショニングから攻撃への切り替えに人数がかけられず時間がかかってしまった。ただ、通用した部分としては男子相手に積極的にショルダーチャージでボールを奪いに行くことができていた。

北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！



③攻撃

組み立てに関しては、ダイナミックな動き出しを持ってDFを外して受け手と出し手のタイミングを合わせてゴールへ向かうことを目的としたが、タイミングが合わずに幾度とボールを失うシーンが見られた。また、オフの選手の関わりが少なく、長い距離を走ってボールを受けるシーンや、動き出して選択肢を増やそうとする選手が少なかったように感じた。シュートチャンスが少ない中でも決めるべきところでは決めて、チャンスがあればミドルレンジからも積極的なシュートが多数見られた。

④ゴール前の攻防

相手のゴールを奪い、相手にゴールを許さない強い意志が全体として意識が薄いように思えた。常に相手の一步先を行く「賢さ」に加え、冷静沈着に状況判断すること(かけ引き)ができる選手がまだまだ少ない。

⑤GK

今大会ではシュートストップ、ブレイクアウェイ、クロスの基本技術の徹底と効果的にゲームに関わることを意識させた。キャッチング技術は問題なく行っていたようだが、DFからバックパスを受けると判断が遅くなりピンチを迎える事が多々あった。またGKからのディストリビューションなどでボールを失うシーンが多くなってしまった。DFとのコミュニケーション不足・良い準備(観る・予測・ポジショニング・構え)ができておらず、大量失点の試合もあった。クロスボールに関しては密集したゴール前でも勇気を持ってコンタクトしながら奪うことができていた。

☆2 成果と課題

今大会は守備をコンセプトに大会に臨んだが、コンタクトスキルに関しては力強いプレーが目立ち女子でも十分にプレーすることができていた。今後、相手の状況を観ながらポジショニングを意識し、アプローチ、インターセプト、ゴールを意識したポジション、オフ選手の関わりから連動した守備が課題である。

GKに関しても根本的な「サッカー理解」に加え、基本技術の習得、効果的な関わりが課題である。フットボラーとしてのスキルを十分に身につけていくことが課題である。

全体を通して、この時期の大会ということもあって個々人のトレーニング不足が目立った。各クラブチームでの練習がオフになっているこの時期での個人の取組も改善していかなければNFCでのスキルを発揮することは難しいと感じた。

最後に今大会に参加するに当たりご協力いただいたJFAスタッフ・HFAスタッフに感謝を述べてまとめる。

2011ナショナルトレセン女子U-15テーマ
より質の高いフットボラーを目指して
「賢くかけ引きしながらハード
ワークできる選手になろう」

